

2019年 5月～7月

5月3日(金)

気が付いたら連休も後半との事。仕事らしい仕事はこなしていないが、昨日以外は結構会社に行く事になる。ま、それしかする事が無いから、仕方が無いと言えばそれだけの事。陽気も良くなって来ていて、何処にも行かないのも勿体無く感じない訳でも無い。とは言え、病気なのだろうか、要は意欲が無い。これは他人にも感染させるのか、同じく家族皆無気力状態な感じである。個人的な過ごし方としては、相変わらずであるが、本を読んだり、映画を見たりといったところ。今更であるが、仕事は深刻である。4月は結局、成約無しだった。投げ掛けアタックはそれなりに件数を処理してはいる。やっては居るつもりだけど、結果は無しという、今更になるが深刻に悩んでもいる。

5月7日(火)

連休は昨日で終わった。連休が有っても無くても、メリハリ無く10連休は終了した。5月に入って年号も改まった。いずれ感覚的、変化に慣れてくるだろう。明日、また千葉リハビリだ。毎度の事になるが少し整理するに、自分の希望は事故前の生活スタイルを取り戻したい一心である。希望らしいモノは少ないかも知れないが、生きる糧とか生き甲斐とか、打ち込める目的意識や熱意というモノを取り戻せば有難い。それだけ現状にはそうした生きていく上での欲望がストーンと消えてしまった感じがする。

5月28日(火)

病院診断であるが、高次脳機能障害の場合、悪くなる事は無くとも、良くなる事も無い。低機能が継続するだけと言われた。良くなる事がない状況はこの1年4ヶ月で実感するが、徐々に悪くなっていく事も実例で感じるところだ。個人的に良くならない事が実感できるから、ストレスの意味から仕事も変えるべきかと思った時期もあった。良くなる見込みもないし、改善する為の対策も無いのであれば病院に行く事も無駄という事か。仕事の改善が出来ないのは、病院に頼る事ではなく、別の方策を検討すべきだとするのなら、何を対策すべきか分からない。努力不足だ、今まで以上に手間ヒマかけろという意味合いと解釈する為に、今まで以上とは言えなくとも、近い事を目指して来たつもりだ。仕事よりも地域活動に重点を移すべきという考えもできるかも知れないが、仕事が出来ずにボランティアに移るのは気持ち的に本当に辛い。だったらボランティアを断念して仕事に特化した方が合理的という判断で来たつもり。病院側の判断として、日常会話は改善の方向にあるというならば、何故仕事は徐々に減少するのであろうか。仕事の結果で言うと、昨年春頃の方が結果数字が良いと言う事実は矛盾しないだろうか。思うに、日常会話が多少出来る出来ないは、この仕事で大勢に影響しないという事だと思う。もっと根本的な所にダメージがある様に思えて仕方がない。やはりそれは高次脳機能障害だと思う。更に徐々に深く結果に影響しているとしか思えない。

5月30日(木)

家内からイロイロ言われる。いかにアンタがダメかという事。もう聞く気力も無い。仕事らしい事を少しはしたかも知れないが、相変わらず効果無し。そうした中、全ての気力が湧かない。参ったものだ。出来れば全てを取り敢えず終わらせたい。自分が酷い精神状態にあるかないかは、事故以降で何も今更始まった事ではなく、頻繁に有った事だ。今更触れるまでもなく、ある種の言い訳は十分に整っているはず。何度か話しているつもりだが、大きな1つのキッカケは事故後の自分の仕事における低調は事故と無関係であるという決め付けである。自分としては、事故があったから昨年33%まで減少、今年で11%まで減少。これは良くなって来ているものではなく、事故と無関係とは決して認めて欲しくない。何も欲しくない。欲張らない。単純に事故の前と同じ事、近い事をしたいだけだ。頑張りが足りないから戻らないという決め付けは、それなりに以前と近い努力をしているだけに、相当に落ち込む。単純に努力不足と決め付けられるのは、人間止めろと言われてるに等しい。この落ち込みは相当大きい。

5月31日(金)

成田リハビリにて、昨年6月の診断で高次脳機能障害の認定されなかった経緯について思

2019年5月～7月（退院後）.txt

う事。一つには昨年5月、6月頃と言えば、自分の状態はある種、最も活気があって、好調だったのかも知れない。思うに、当時何を考えてたかと言うと、仕事で移動するには自転車しか手段が無かった。移動手段で車を使える事が全ての解決だと確信していた時期である。とにかく免許証を再認定される事が最大目的であった。その為には良好な結果を出す事が最大目的という意識だった。で、免許センターにその確認手続きに行ってもなんの支障なく、そのまま運転で帰って良いというコメントでもあった。で、これで全て解決して事故前の営業活動が復帰され結果も以前に近付くだろうと期待した。ところが運転しながらの営業活動で直ぐに気がついた事は、事故前とは根本的に思考活動が違うという事。その結果、秋口辺りから余りに結果が改善しない為に、精神的に追い込まれる事になる。暮れになって始めて、事故の対策を真剣に行うべきと意識しだして始めて成田リハビリで高次脳機能障害に認定をされていない事に気が付いた。話が戻って、事故後の営業活動が支障を来している事は、事故の結果、因果関係とは無縁である。と昨年6月に直接言われた覚えは無いが、書面上は同じ事であるなら、訂正、修正をお願いしないと事実関係に大きな矛盾が生じる事は本人が最も自覚している事である。また、全てを投げ打っても訂正してもらわないと、存在の全否定につながる。何度も触れるが、営業成績が振るわないのは、事故に関係なく、自分の営業努力が欠如しているだけだと認定される事になる。これは人格の全面否定であり、事故後の営業に対する回復努力も認められない事になる。

6月2日(日)

会社もそうであろうが、家庭内での雰囲気も極めて悪い。今更、毎度であるが気持ちが何とも否定的である。これといって取り出さず話題では無いだろうが、明るい前向きな姿勢になれない。これを病気、精神疾患というのであろうが、毎度の事だ。実は事故が起こる以前からこうした傾向は持って生まれたものかも知れない。

6月11日(火)

営業に出ている時に、突然のキツイ体調不良、立ちくらみに襲われる。これは深刻に困った。初めての事だった。40分程度休んでから何とか車を運転して帰る。体の不調もそうだが、毎度の事、気持ちも落ち込む。昼間に落ち込みの要因1つに成田リハビリへの問い合わせアタックがあった。結論はまだ無いが、診察面談の今後については印象的に相当厳しそう。当事者として気持的負担が相当大きい。空対協の事で確認問い合わせた件についても、結構応えた。

6月14日(金)

当面の問題は何であろうか。気力と自信の喪失であろうか。やろうという意欲や、自分にはこれが出来る、こなせる技量ややり方が把握できているという気持ちの中での構想やらシミュレーションがどうも不足している様だ。何をすることも中途半端な感じである。止めて方向転換する意欲ややり方も見えてこない。自信の喪失とは、今まで出来ていた事が出来ない、結果が伴わない、説得力が無い、説明能力が不安定、等々であろうか。仕事や実績として人から認められる実感が伴わない、そうした意思疎通が存在しない事が大きなきっかけかも知れない。

6月16日(日)

現状の仕事を今後も継続すべきか深刻である。自身、過去の経過を時として失策やら手違い不注意が指摘され出した。自身、過去の行い、活動は間違い、勘違いの積み重ねだったという事であろうか。確かにミスは確実に有ったことは否めない。しかし、それで良しでは無いにしろ、修正しながら今までも結果、積み重ねをしてきた筈だ。間違いだけの積み重ねであつたら、20年間、今日まで生き延びる事自体不可能であろう。しかるに、そうした中で自身の間違いだけが強調されるのはどこか不自然さが有ろうかと思える。乱暴な言い方になるが、1つの間違いを全てであるかの如くに取りだたされるのは、精神衛生上健全な事業活動とは思えない。そうした雰囲気、環境の中で仕事を継続するのはとてもストレスが溜まると思われる。何れにせよ実績が上がらない現状においては、肯定的に良かれと思われる部分よりも、圧倒的に過去が長くあればある程、マイナス面が強調されるのであろうか。つまり自分にとってはとても息苦しい環境である事は間違いがない。では同じ環境で仕事を継続すべきかという考えよりも、今後生き続けて何をすべき、何を目指すべきかに考え方を切り替えるべきかと思える。何の仕事に生きる糧を求めるべきか

2019年5月～7月（退院後）.txt

は、大変大きな目標設定であることは当然であるが、もっと根本的な部分が漠然としている事も確かである。つまり、そもそも生き続ける必要が本当にあるのだろうかと言う根本である。それだけ間違いが今後も積み重なって行くのであるなら、生き続ける事自体が苦痛の積み重ねになるだけでは無いだろうか。

6月19日(水)

千葉リハビリ病院にて、薬の相談、内容と頻度。

仕事の内容として、現状内容で内容変化、単純化の試み。職種変化は意欲が問われるのでオススメ出来ない。

7月3日(水)

今年の後半期となった。進捗は残念ながら、どう見ても下降している。個人的に書き留めておくと、読書する事にわずかばかりに生き甲斐を感じている。少しでも本を読む事に喜びを感じる毎日だ。で、出来る事なら心地良く効率的に本を読める環境づくりを試してみたいものだと思っている。

7月11日(木)

先日の土曜日に部屋の模様替えをする。少しは居やすくなった。

7月24日(水)

千葉リハビリに行く。小池先生との1時間面談。根本的にこの面談は自分自身のリハビリである。であるから基本的にこの時間で自分が言葉で言い表す行為のトレーニングである。この一月間の気持ち行動の変化、感じる事を如何に表現できるかを試されていると思える。そうした行為、努力こそが頭の基本的な構造を建て直すトレーニングという事だ。で、この一月間でどうであるかを云うと、意欲は相変わらず低迷している現状。仕事の量は少しの変化は無い。

仕事では、お客様にお会いする行為、件数は大差がないかも知れないが、契約につながる面談は限りなく縮小していると思える。何が違うかと云うと、面談の質、内容の深さである。購買につながる関心への話題性や題材、引出しの有る無しであろうか。つまり雑談に関する事への関心度の浅さに問題が有ろうかと思える。会社でも同僚が行なっている雑談には居たたまれなさを感じてしまう。それは自分がそうした環境、雰囲気自体を避ける傾向にあるのも事実である。指摘されるに、高次脳機能障害での原因というよりは、うつ病、精神疾患の二次的な原因が複合しているとの事。脳機能の復元力は年と共に低下する傾向はあるとの事。

自分の問題点、課題としてはこうした面談の深掘りにつなげる提案力の掘り下げとして、話題のネタや関心としての引出しづくりであろうか。